



職員室だよりがなかなか出せていなくて申し訳ありません。秋になり勉強の秋でもあるので、久しぶりに授業について考えてみましょう。先日の学校教育課訪問、皆さんお疲れさまでした。概ね全員の先生方の授業を見させていただき、1点「めあて」に焦点を当てて見学させていただきました。昨年度末の反省と課題で、学力向上委員長から「より意味のあるめあて」の追究を提案されました。あれからめあてについて考える機会がありませんでしたが、ちょうど公開授業があったので皆さんが提示されためあてを振り返ってみましょう。

まず、思いだしてほしいのは県が提唱する「和歌山の授業づくり 基礎・基本3か条」です。第1条では…

本時の目標や学習課題を明確に示す

となっています。目標（めあて）と学習課題の違いについては後日示すこととして、めあてを明確に示す方法としては、一番簡単な方法が「板書」となります。もちろん、ワークシートへの記入やモニターでの提示などいろいろとあるかと思いますが、一時間の授業の中で、いつでも目標（めあて）に振り返ることができるのは板書だといえると思います。今回の公開授業では、70%のクラスでめあての板書が行われていました。もちろん、参観するタイミング（授業の冒頭すぎてまだめあてが提示されていない）にもよるので正確ではありませんが、概ねめあての板書ができていました。多くの先生が意識をして授業をしてきていることをうれしく思います。（平常時の授業ではもう少しめあての提示が少ないように思うのが残念ですが…）とにかく、書くということが第一段階でもあるので、そのことが徹底できると嬉しいです。

次に、めあての”質”という点です。以前の通信で詳しく紹介（バックナンバーはHPで）しましたが、改めて簡単に紹介させていただきます。まず、どうしてめあてを提示して黒板に書く必要があるのか？です。県教委が書けというから書いているではあまり意味がないですね。意味をしっかりと理解して書くことが必要です。めあてを書くことは私が教師になった時にも先輩の教員から言われました。小学校での話ですが、一昔前からめあては大事だといわれていたのです。（全国学調で高い県がやっているからではありません。授業の基本です。）

めあては、子供に授業の見通しを持たせることが大きな目的です。以前にも紹介しましたが、特別支援の視点で大事な点として、ユニバーサルデザインの視点が重要であることを述べました。その視点の中に当てはまる点としては、視覚に訴えること、そして先の見通しを示すことが大事な点としてあります。その2つのことを解決する術の1つとして「めあて」を板書することがあります。

このことから、「めあて」はどのようなものであるべきかが見えてくると思います。

「めあて」は、先を見通したものでなければならないということです。先はどこまでかという、あくまで「本時」の範疇でとなります。この一時間でどんなことをするのか、どんな力をつければいいのかが見通せればよいということです。よって「めあて」= Goal になっていればいいのです。英語の授業では、この点具体的になっていて「Today's Goal」と表記しているのをよく見かけます。本時の Goal を意識したものになっている必要があるのです。

では、Goal には何を示す必要があるのかです。そこに評価の視点が含まれてきます。「指導と評価の一体化」という言葉がありますが、1時間の授業の中には必ず1つ以上の評価の観点が含まれているはずです。もちろん、評価とは例の3観点で「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」になりますが、「めあて」にはこの観点を意識した言葉が使われることが望ましいこととなります。一番わかりやすいのがめあての文尾をどのように表現するかだと思います。例を示すと

【知識・技能】

「～について知りまとめよう」「～実験をとおして調べよう」

「～を正確に読み取りつくってみよう」「～グラフを用いて整理しよう」

【思考・判断・表現】

「～について考えよう」「～を表現してみよう」「～の解決方法を考えよう」

「～考えたことを班でまとめて発表しよう」

【主体的に学習に取り組む態度】

「～に進んで取り組もう」「～を挑戦してみよう」「～を推理してみよう」

「～について気付くことは何だろう」

といったような表現があると明確に評価が見えてくると思います。このように評価を示すことが子供たちにとってどのような効果があるかという、この評価の部分が授業のメインディッシュに当たってくるのです。例えば、「～考える」というめあてだと、授業の中心発問に思考場面が設定されるはずですが、このめあてで1時間の授業中ずっと教師からの説明で終わってしまったらめあてと一致しないですね。そして、子供たちにとっては、メインディッシュである考える場面で、しっかりと考えることができればこの授業での目標が達成できることを授業の冒頭に理解することができるのです。同じように「～実験を通して調べよう」だと実験をして調べればよいんだということがわかります。だから、先生の説明は実験で調べるための説明であり、子供にとってはちゃんと調べられればそれでいいということがめあてで分かってくるのです。だから、評価の部分をめあてに入れておかなければ、子供にとって何が Goal なのかがぼやけてわからなくなってしまうのです、そして、教師側から考えてみると、めあて一つで授業計画が明確になり、指導と評価が一体となった授業づくりができるようになります。教師にとっても、めあてを考えれば本時の授業が明確なものにすることができるのです。